

授業科目名	教育相談の理論と方法 (Educational Counseling Theory and Method)		
科目番号	86200(保健科学部)	授業形態	講義
単位数	2単位	履修年次	2年次
教員の免許状取得のための必修・選択	必修	受講対象	保健科学部
担当教員(研究室)	三好 力 (非常勤講師)		
実務経験のある教員による授業科目			
免許法施行規則に定める科目区分等	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育現場での生徒指導上の問題に応じ、適切に対応できる能力を育成する。</li> <li>・カウンセリングの諸技法の理論と技術を身につける。</li> <li>・学級集団指導に有益な心理的技術について理解を深める。</li> <li>・教育相談における保護者や地域との連携と関わり、スクールカウンセラー等との連携について学ぶ。</li> </ul>		
授業概要	学校における教育相談は、心理学の専門家や一部の教師が担うものではなく、授業や学級経営と同じように全ての教師が担当する教育活動の一環として位置づけられている。本講義では、教育相談の理論、技術、スクールカウンセラーの位置づけなどについて概説し、学校(教育現場)における教育相談の役割を理解することを目的とする。		
時間外学修の内容と時間の目安	<p>準備学修: 事前配付資料を精読、疑問点の整理(2H)</p> <p>事後学修: 講義内容を振り返り、学んだこと、考えたことをまとめる(2H)</p>		
授業計画	<p>第1回: オリエンテーションとガイダンス: 教育相談とは何か</p> <p>第2回: 生徒を支えるために必要な教師の資質とカウンセリングマインド</p> <p>第3回: 生徒理解のための心理学——理論と実際の双方向からの多面的理解</p> <p>第4回: 教育相談のための発達心理学的基礎知識</p> <p>第5回: 教育相談のための臨床心理学的基礎知識</p> <p>第6回: 発達障害をめぐる諸問題</p> <p>第7回: アセスメント——多面的に子どもを理解する視点と方法</p> <p>第8回: カウンセリング——信頼関係を築き、子どもを援助する方法</p> <p>第9回: コンサルテーション——よりよい指導・援助のための協働</p> <p>第10回: ソーシャルスキル教育やストレスマネジメント教育</p> <p>第11回: 教育相談を成立させる現実条件(目標の立て方や進め方)</p> <p>第12回: 学級経営と学校のリスクマネジメント</p> <p>第13回: 「チーム学校」にみる支援体制(他職種連携)</p> <p>第14回: 相談事例の検討: いじめ、不登校・不登園、非行など</p> <p>第15回: 相談事例の検討: 対人コミュニケーションの問題、発達障害を伴う問題など</p>		
テキスト	特に使用しない		
参考書・参考資料等	絶対役立つ教育相談: 学校現場の今に向き合う 藤田哲也他 2017 ミネルヴァ書房 教師のための教育相談の技術 吉田圭吾 2007 金子書房 ほか		

成績評価方法	講義した内容について、感想やコメントの提出を適宜求めます。このような形で授業への参加度を平常点として重視します(40%)。学期末には試験ではなくレポート課題を課します(60%)。
成績評価基準	A+: 到達目標を達成し、特に優秀な成績を修めている A: 到達目標を達成し、優秀な成績を修めている B: 到達目標を達成し、良好な成績を修めている C: 到達目標を最低限達成している。 D: 到達目標に達していない